

福岡銀行

福岡銀行は、中小零細企業や個人事業主への円滑な融資を可能とする新たな仕組みを導入した。受発注情報を電子記録債権で担保化することで、従来の融資手

法（売掛金担保融資や手形割引）よりも早い段階で現金が手に入る。工事の受注情報を担保化すれば、民間工事でも公共工事の前払金と同じように着工時の資金調達が可能となる。

中小向けに新たな融資制度

受発注情報を電子記録債権で担保化

フィンテックベンチャーのTranzax（東京都港区、大塚博之社長）と提携。ウェブ上で提供されるPO（注文書）ファイナンスシステムを利用する。受注時点からの資金調達が容易になる新たな資金調達手段とし、下請け先の資金繰り支援による困り込みや倒産防止、自社の資金繰りの改善策などに役立ててもらう。

同行にとっては、受発注段階から債権の所在を法的に明確化でき、受発注を基に

にしたスムーズな引き当て融資が可能となる。新型コロナウイルス感染症の影響で借入の月次返済負担が大きくなる一方、さらなる運転資金需要が発生する企業に対し、入金キャッシュフローを返済原資に短期運転資金を融資する手段を高度化する一環で、この仕組みを導入した。

同じ手法で政府のものづくり補助金の交付決定情報を電子記録債権化し、補助金交付までのつなぎ融資も行う。